



TITLE:

表紙ほか

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙ほか. 岩本ゼミナール機関誌 2007, 11

ISSUE DATE:

2007-02-23

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/56965>

RIGHT:

岩本ゼミナール機関誌

第11号

2006年度版

京都大学経済学部

岩本武和研究室

岩本ゼミナール機関誌

第11号

2006年度版

京都大学経済学部

岩本武和研究室

岩本ゼミ機関誌第11号（2006年度版）

目次

I. まえがき	岩本武和教授	1
II. ゼミ単位取得論文		
グローバル・インバランスの持続可能性に関する一考察	12期生 大隈拓也	4
リカードの労働生産性について 日米貿易における実証	12期生 酒井美友紀	27
観光政策による経済発展の可能性に関する一考察	12期生 登地秀壮	43
京都メカニズムの現状と課題	12期生 長屋真季子	60
III. ゼミ活動報告およびインゼミ立論・提出論文		
2006年度ゼミ活動報告	13期生 佐藤健太	75
高崎経済大学とのディベート立論	13・14期生	79
三大学論文発表会提出論文	13・14期生	81
論文発表会ISFJ提出論文	13・14期生	107
IV. 先輩からのメッセージ		135
V. 2006年度ゼミ決算報告	13期生 真戸原秀重	137
VI. 編集後記	12期生 大隈拓也	140

Ⅱ．ゼミ単位取得論文

グローバル・インバランスの持続可能性に関する一考察 大隈拓也	4
リカードの労働生産性について 日米貿易における実証 酒井美友紀	27
観光政策による経済発展の可能性に関する一考察 登地秀壮	43
京都メカニズムの現状と課題 長屋真季子	60

Ⅲ. ゼミ年間活動報告およびインゼミ立論・提出論文

2006年度ゼミ活動報告 佐藤健太	75
高崎経済大学とのディベート立論	79
三大学論文発表会提出論文	81
論文発表会 I S F J 提出論文	107

表彰状

特別賞

京都大学 岩本武和研究会

貴研究会は、ISFJ日本政策学生
会議二〇〇六に於いて優れた研究
分析を以て、学生の代表者として
「論文」執筆を奨励し、その
研究能力を讃え表彰する

平成十八年十二月十七日

ISFJ日本政策学生会議



OB・OGの方へ

◎ 寄付金のお願い

2006年度も多くの方から寄付金を頂きました。ありがとうございました。おかげさまで今年も充実したゼミ活動となり、無事に機関誌を発行できることとなりました。ここに現役ゼミ生を代表して、お礼申し上げます。

2007年度も改めて寄付金を頂戴できれば幸いです。一人一口7000円にての御寄付お願い致します。

みずほ銀行 出町支店 普通預金

口座番号 476-2003967

京都大学経済学部岩本ゼミナール 岩本武和 宛て

◎ ホームページについて

ご存知の方も多いことかと思いますが、岩本ゼミナールのホームページがあります。現在のゼミの様子が写真なども交えて紹介されております。また青竹会等の連絡事項等を掲載したりすることもありますので、時々チェックのほどよろしくお願いします。

岩本ゼミナールHP (<http://www.geocities.co.jp/CollegeLife-Library/3251/>)

◎ 名簿について

ゼミ名簿に関してですが、住所・電話番号・勤務先等に関して変更点があれば出来る限り更新をするようにしております。現在の名簿の内容に変更がある場合、また今後変更点が生じた場合には、次年度編集委員の13期生佐藤(kozou_in_kyoto1114@yahoo.co.jp)までご連絡ください。

VI. 編集後記

岩本ゼミの機関誌も11号目を迎えました。今年からは機関誌作成に補助金が出ます。これで慢性化しつつあったゼミの財政難も少しは改善されるのではないのでしょうか。その分締め切りが前倒しになり、若干駆け足で作成した感がありますが、無事に完成を迎えることができ一安心しているところです。

4回生が執筆した論文は、各々が過去を振り返り、あるいは将来を見据えたテーマに取り組んでおり、味わい深い内容に仕上がっています。今年度の現役の活動は、貿易論と国際金融の両方を各論文で扱いました。ディベートでは移行経済についての理解を深めるなど、全体として多岐にわたる勉強をこなしてきたことが現われています。その分量からも、今年度もゼミ生が妥協することなく学問に打ち込んできたことが伝わってきます。

自分が岩本ゼミに入って、3年が過ぎようとしています。当初ゼミ見学もせずに飛び込んだものの、優秀な先輩方が熱心に経済学に打ち込んでいる姿を目の当たりにして、別世界を見る思いがしました。酒と部活に明け暮れていた自分は場違いなのではないかと不安になりながらも、自分で選んだ道だから、と腹を括って活動に取り組む決意をしたのを覚えています。そして岩本ゼミの活動を続けていく中で、理論と現実の両面から経済問題にアプローチする姿勢には、学部生ながら学問の素晴らしさを垣間見た気がしました。

岩本ゼミの活動は先輩方の経験を土台として成り立っていました。輪読もインゼミも、前年度の方法と結果にフィードバックをかけ、自分が中心となる代には更に質の高い活動へ昇華させようとする意気込みは毎年のように感じられます。それも、常に先代ゼミ生が真摯に学問と向き合って全力で取り組む姿勢を示し、かつ良い結果を残してきたからではないのでしょうか。先輩が後輩の手助けを惜しまない雰囲気も、学びの場としての環境をよりよいものにしています。学生がゼミに携わるのは3年間です。しかし先代が残したものを次代が消化吸收するという作業を繰り返し、岩本ゼミ自体は毎年成長し続けています。そう考えると自分が在籍したことにも少しは意味があったのではないかなと思います。自分がゼミに入った時には既にレベルは高く、非常に多くの勉強をさせていただけました。それも現在各方面でご活躍されている先輩方が築き上げた賜物だということを考えると、感謝の念がたえません。もちろん、そのようなサイクルは岩本先生の力が無ければ不可能だったでしょう。先生の教育に対するスタンスには随分と助けられました。

「アカデミズムの雰囲気のないゼミは無意味だし、遊び心のないゼミは空しい」岩本ゼミの益々の発展を祈っています。13期生の皆さんは第一線を退いたけれど、後輩を手伝うことが自分にとって良い勉強になることも多々あります。ぜひゼミに顔を出してあげてください。14期生の皆さんからは大きなポテンシャルを感じました。自分を信じて頑張ってください。そして、同期の皆へ。最高の仲間でした。卒業してからも飲みに行こう。

2007年 2月15日 大隈拓也

岩本ゼミナール機関誌 第11号
2006年度版

2007年2月23日発行
京都大学経済学部
岩本武和研究室

禁無断転載